



南九州市立 宮脇小学校

児童数 95 人
学級数 8 クラス



《テーマ》

互いの良さを認め合い、子ども一人一人が輝く学校を目指して

研究に当たって（テーマ設定の理由）

本校の児童は素直で明るい子どもが多いが、自分の思いを適切な言葉で伝えられずに友達と不仲になったり、心無い言葉に傷ついたりすることがあった。

そこで、互いの良さを認め合い、子どもたち一人一人が生き生きと輝ける場をつくりたいと考え本研究テーマを設定した。

研究の実際

4月18日（火）児童集会（たて割り班仲間づくり）
6月12日（月）職員研修（人権同和教育）
6月10日（土）みやわきタイム
11月11日（土）みやわきタイム
11月30日（木）人権教室
12月1日（金）～9日（土）校内人権週間
12月6日（水）家庭教育学級（人権同和教育）
12月25日（月）県いじめ問題子どもサミット発表

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ たてわり班活動

異学年で構成された班で、清掃活動や外掃除をはじめ、集会活動や児童総会などの話し合い活動も行った。

□ みやわきタイム

6年生が中心となって企画運営するたてわり班活動。学年関係なくみんなが楽しめるレクリエーション（新聞ジャンケン、積み木タワーなど）を子どもたちが考え、仕事を分担し、生き生きと活動できる集会となった。



【みやわきタイム】

□ 人権標語作成

保護者と一緒に考えることで、家庭での人権教育の啓発につながった。標語は廊下等に掲示して紹介した。

□ 人権作文

夏休みの課題で人権作文に取り組んだ。低中高学年の作文を校内放送で紹介。人権について幅広く考えるきっかけとなった。



【人権教室】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの姿、よかったこと、今後やってみたいこと）

- 県人権同和教育課から講師を招き人権教室を行った。「わたしも大切、あなたも大切」という言葉が児童に浸透し、言葉遣いに対する意識が高まったり、トイレのスリッパを次の人のためにと並べる行為が見られたりした。
- 人権教室だけではなく、職員研修・家庭教育学級で子どもを取り巻く大人自身の人権感覚も磨くことができた。人権教育は全教育活動を通して行うことを念頭に置きながら、今後更に子どもたち一人一人が輝く学校になるように取り組んでいきたい。